

図書館だより



no.222

2020(令和2)年1月5日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



展示コーナー **はしれディーゼルきかんしゃ デーデ 原画展**

期間：2月20日(木)～4月1日(水)

展示関連講演会 **「きかんしゃデーデが福島に届けてくれたもの」**

講師：『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』作者 すとうあさえさん、鈴木まもるさん

日時：3月7日(土) 14:00～16:10

会場：福島県立図書館 講堂

お申込み・問合せ先：福島県立図書館（電話：024-535-3218）

入場無料 事前申込制



ロビー展示

一目瞭然！会津美里町の魅力～只見線関連展示～

期間：1月5日(日)～2月11日(火)

福島県立図書館では只見線復旧・復興に向けた支援事業に取り組んでおります。令和元年度には、会津駅・会津柳津駅に「只見線応援文庫」を設置したことに加え、県立図書館で現在開催中の「只見線応援コーナー」に関連した展示を行います。沿線の会津美里町の様子を魅力的に撮影したフォトコンテスト作品の紹介です。また、関連資料も展示・貸出します。※関連パンフレットの配布があります。

時事展示 **明智光秀とその時代**

期間：1月5日(日)～2月11日(火)

今年のNHK大河ドラマの主人公である、明智光秀にスポットをあて、謎の多い人物像やその時代についての資料を展示します。

館内中央 雑誌展示コーナー

ファッションを楽しむ

期間：1月5日(日)～3月4日(水)

2月9日「服の日」にちなんで、ファッションに関する雑誌を展示します。

「県民講座」法テラス福島「一般市民向け法教育事業」

《法教務的特殊詐欺の見抜き方》

日時：2月9日(日) 14:00～15:30

場所：福島県立図書館 第一研修室

講師：岩崎優二弁護士(福島弁護士会所属(いわき支部))

※定員60名

入場無料、申込不要

●**図書特別整理期間のお知らせ**●

令和2年2月12日(火)～19日(水)

蔵書点検のため図書館を休館します。

※本の返却は「返却ポスト」をご利用いただけます※



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『夢のユニバーサルシアター』 平塚 千穂子／著
読書工房 778.09/㊦ 198/

「バリアフリー映画」というものをご存じでしょうか。見ることや聞くことにハンデのある人でも楽しめるよう、日本語字幕や音声ガイドを付けた映画のことです。本書はそんな映画を上映する映画館、ユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」と、その創設者である著者の物語です。この映画館では、公式の字幕やガイドがない作品を上映する際には、一から自前で制作するそうです。実際の映画を例にして音声ガイドの作り方を解説している章もあるので、「映画の音声ガイドってどんなもの？」と不思議に思う方には特におすすです。

『絶望しないための貧困学 ルポ自己責任と向き合う支援の現場』 大西 連／著 ポプラ社
368.2/㊦ 159/2

日本が直面している「貧困」とは何でしょうか。路上生活、ネットカフェ難民、DV など、生活が困窮している状態は、今や「すぐそばにある」ものとなってしまっています。この本の著者は、ふとしたきっかけからボランティア活動を始め、貧困状態にある人が抱えている思いや事情と向き合うこととなります。ボランティアで関わった人の話だけでなく、貧困についてのコラムも各話ごとに設けられているため、貧困の現状を考えることができる一冊です。

『精神医療のゆらぎとひらめき』 横田 泉／著
日本評論社 493.763/㊦ 197

精神科医は対象者の意思に反して入院治療を行いその人の自由を制限する権限を国家から与えられています。第2部「精神科病院をめぐる諸問題」で筆者は、精神科病院の持つ「収容所性」から相模原事件を考えます。事件を個人の問題にとどめず、事件を生んだ構造や自らの仕事を顧みようとする態度には30年以上を臨床の現場で過ごした筆者の思考の軌跡が表れています。精神医療や統合失調症とともに生きる人に対するわたしたち自身のまなざしが問われる一冊です。

児童・児童図書研究

『ひとりでよめたよ!幼年文学おすすめブックガイド200』 大阪国際児童文学振興財団／編 評論社
2019.6 J019.5/㊦

読み聞かせから一人読みに移行する時期の子どもが本を選ぶ際、手助けになるブックガイドです。幼年文学を絵本や物語、ノンフィクションなどテーマごとに分類し、さらにどの程度文字が読めるかで本のグレードを三段階に分けて紹介しています。資料編として、絵本でお話を楽しもう～絵本リスト、書名索引、キーワード索引も付いた一冊です。

雑誌・新聞

新元号・令和になってから初めて年が明け、また新たな年を迎えました。今年はいよいよ、東京五輪が開かれ、県内も聖火リレーのスタート地点や野球・ソフトボールの会場となっているため関心も高まっているのではないのでしょうか？また県内関係として、NHKの連続テレビ小説「エール」の放送開始も控えています。

このような2020年を特集した雑誌をご紹介します。

『エコノミスト』 Z330.5 / E1
第97巻第50号, 通巻4631号, 2019.12.24日号
『日本経済総予測2020』

『月刊リベラルタイム』 Z335 / R1
第20巻第1号, 通巻224号, 2020年1月号
『2020年の日本! 『年金』『株価』『不動産価格の行方?』

『天文ガイド』 Z440.5 / T3
第56巻第1号, 671号, 2020年1月号
『2020年注目の天文現象!』

『芸術新潮』 Z705 / G1
第70巻第12号, 2019年12月号
『これだけは見ておきたい2020年美術展ベスト25!』

地域

『帝国ホテル建築物語』 植松 三十里／著
PHP 研究所 2019.4 L913.6/U7/4

帝国ホテルと福島県にどんな関係が？近代建築の三大巨匠の一人、フランク・ロイド・ライトが設計した帝国ホテル旧本館は1967年に解体され、現在は犬山市の明治村に玄関部分を残すのみですが、建築史的に非常に重要な建物とされています。様々な困難があったこの建築に際しライトの助手を務めたのが福田村（現・新地町）出身の遠藤新（あらた）です。特別な煉瓦の入手、軽くてエレガントな石材探し、職人たちや経営陣と建築家の衝突、膨らみ続ける建築費……約百年前の遠藤青年の苦悩、そして喜びをすぐ傍で見ているような気持ちになる1冊です。

『生きているシーラカンスに会いたい!』
岩田 雅光／著 新日本出版社 2019.6
L487.5/I1/1

現在、地球上で生息が確認されているシーラカンスは「アフリカ・シーラカンス」と「インドネシア・シーラカンス」の2種類です。アクアマリンふくしまではその両種の標本を期間限定で展示しており、そのような水族館はほかにありません。

これら2種のシーラカンスが展示されるようになった経緯や、現地調査での経験談などを、水族館開館当初から調査に携わり、生きているシーラカンスを30匹以上も観察してきた著者が語ります。